

第54回 日本母親大会 in 愛知 2008年7月26日～27日  
2日間でのべ15000人の参加で大成功。大阪から256人の参加。全体会で大阪から、  
府PTAなどとの共同で35人学級の存続をかちとったことを発言。

全体会講演 「憲法を力に未来をきりひらく」 一橋大学 渡辺治教授  
日本国憲法が公布されて61年間 生かしてきた力は何だったのか？歴史的に明らかにする。

## 1、第一の危機 1950年代 朝鮮戦争

1954年自民党、改進黨が憲法調査会設置をして、「現憲法はアメリカにおしつけられた」として改憲を策動。←1955年 第1回日本母親大会成功 改憲賛成の世論が反対へ

1960年代の安保闘争（岸内閣 国会に警察を入れて強行採決）

- ・総評、社会党・共産党の合意、日本各地に2000の安保反対の組織が中心
- ・運動の主体者は若かった
- ・戦争の記憶がまだ国民の間に残っていた

その中で、非核三原則の国会決議・軍需産業が台頭できない、世界でもめずらしい国  
自衛隊を海外派兵しないことが国民の間に支持されてきた

憲法25条については、理想であり財政的に許さないとされてきた

朝日茂さん訴訟が大きな運動の契機になった←総評が最低賃金につながることで支援  
革新自治体が「ポストの数ほど保育所を」「15の春を泣かせない」老人医療費無料化をか  
かけ、「憲法をくらしにいかす」として誕生

## 2、第二の危機 1990年代

新たな改憲策動・9条つぶしはアメリカからの要求

- ・世界の競争に勝てない 大企業の法人税は安く、社会保障は削減
- ・規制緩和をすすめる構造改革

安倍内閣の改憲策動に参議院選挙でNOの審判

- ・母親運動、9条の会の運動が世論をかえた
- ・安倍の押し付け改憲論に保守も反発・宮沢、野中、後藤田
- ・構造改革に対する怒り

## 3、大きな二つの危機の比較

- ・労働組合など大きな組織の運動で乗り越えてきた60年代に対して、今は9条の会など  
草の根の組織で世論を作っている。
- ・構造改革反対・後期高齢者での共同、反貧困での共同で憲法25条をいかす運動を
- ・アジアの中で憲法9条をいかす運動を
- ・9条、25条はまだまだ発展途上・国民が政治をかえる運動を地域から